

乳児期の頭部・顔面症状が軽減した後に受験期の頭皮症状が再燃した青年期アトピーの経過 (15 歳 女性)

症例 ID : 001-15-TN2 | 記録日 : 2017 年 8 月 11 日

1. 診断・治療前経過

生後 1 か月頃から皮膚が乾燥し、生後 2 か月頃にステロイド外用を開始しました。生後 4 か月頃には別の医療機関で外用処置、食事制限、手袋の使用などを続けました。

生後 6 か月頃に松本医院を受診しました。初診時は頭部全体がかさぶたで覆われ、頬にも強い乾燥がありました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	生後 2 か月頃からステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	生後 2～4 か月頃に複数回使用しました。
中止時期	生後 6 か月頃の松本医院受診前です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 1～2 か月	発症	全身の乾燥と顔・頭部症状が出ました。
生後 6 か月頃	治療開始	漢方入浴、消毒、外用処置を開始しました。
治療 1 週間頃	初期変化	頭部のかさぶたと頬の乾燥が大きく軽減しました。
その後約半年	治療継続	症状に波がありながら漢方入浴を続けました。
小学 5 年後半～中学 3 年前半	安定期	皮膚症状がほとんどなく、治療をせず通常生活を送りました。
中学 3 年夏	再燃	受験勉強期に頭皮が浸出性となり、髪が固まる状態となりました。
高校 1 年・記録時点	治療継続	頭皮・顔・肘・膝周囲に症状があり、煎じ薬と外用処置を続けていました。

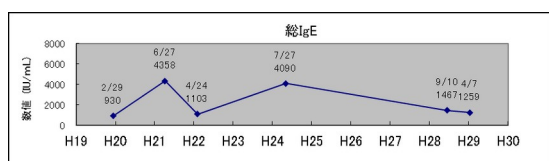
4. ピーク時期

ピークは乳児期に頭部全体がかさぶたで覆われ、頬が強く乾燥していた時期と、中学 3 年夏に頭皮から浸出液が出て髪が固まった時期です。

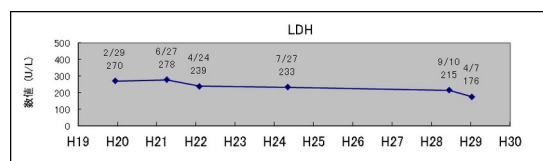
5. 困りごと

- ・乳児期に遠距離通院と毎日の入浴・外用処置が必要でした。
- ・受験期の再燃では頭皮の浸出液とかゆみが続きました。

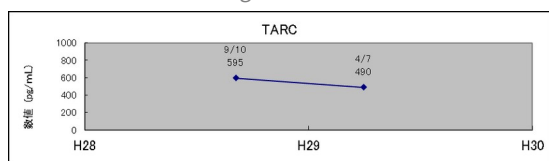
6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



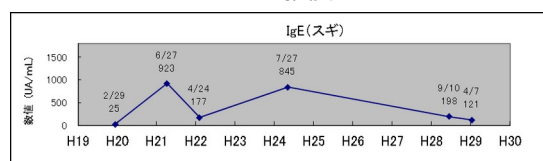
総 IgE の推移。



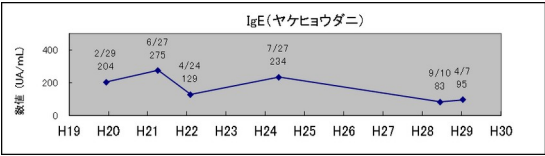
LDH の推移。



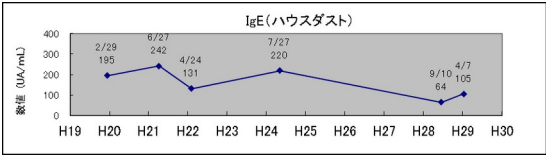
TARC の推移。



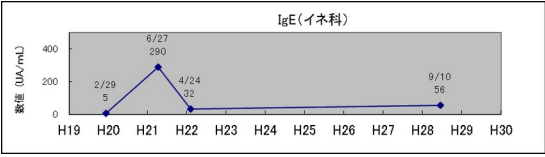
IgE (スギ) の推移。



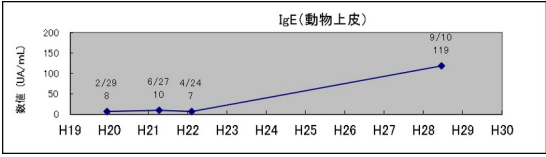
IgE (ヤケヒョウダニ) の推移。



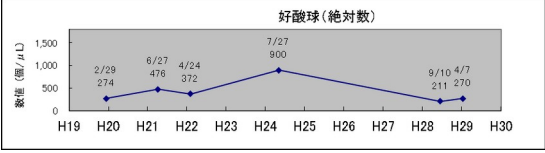
IgE (ハウスダスト) の推移。



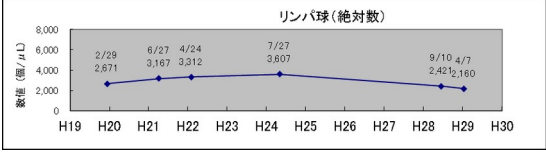
IgE (イネ科) の推移。



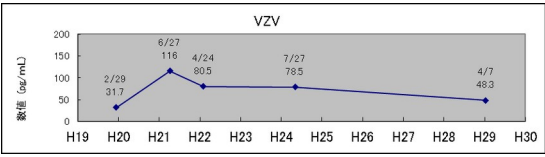
IgE (動物上皮) の推移。



好酸球数の推移。



リンパ球数の推移。



VZV 抗体値の推移。

7. 経過のまとめ

乳児期の治療後は長期間、アトピーと分らない状態で通常生活を送りました。
中学3年夏に頭皮症状が再燃し、記録時点では高校生活を送りながら治療を継続していました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。